

2019年2月このまちで当事者を含むLGBT支援団体として〈からふるテラス〉さんが立ち上がりました。7月29日、代表の渡辺真維さんやメンバーのみなさんにお話を伺う機会をいただきました。話すうちにも〈からふる〉な気分になったのはなぜでしょう。〈からふるテラス〉さんが互いを認め合うことを原点にしているからかもしれません。

## からふるテラスでお茶しましょ?!

—どこから〈からふるテラス〉を立ち上げることになったかということから教えていただけますか?

**渡辺:** 2年前に、共通の知り合いだった人との繋がりで4人のメンバーが集まり、何かできることがないかという話になり、ソレイユさがみとの共催で講座を行うこととなりました。講座は昨年も継続して実施しましたが、参加した当事者を含む人の繋がりがさらにひろがり、団体設立を、という話が本格的になりました。私は、当事者だということを10代後半から20代まで、隠して嘘をついてきました。型通りの女性の生き方ができない自分を嫌悪し、自分を否定して、自分の気持ちを口外してはならない、というふう生きてきたわけなんです。パートナーの彼女と付き合ってた14年。それが、ここ5年ぐらいでようやく解放されて、自己肯定できるようになりました。だから、LGBTについての知識啓もうをしたくて〈からふるテラス〉を立ち上げたというより、自己否定して隠れてうつむいて生きている人たちに、自己肯定していきましょうという、居場所としての〈テラス〉を作りたいと思いました。出会ってお茶でもして、話し合っって自己肯定して、って。

—セクシュアルマイノリティだからと縮こまらないで、それぞれが〈からふる〉にということなんですね。でも、そのなかで「当事者」と呼ばれることについては、どう思われているのでしょうか?

**流:** 「当事者」とラベリングだけで見られるのは大変です。セクシュアリティは全員が持っているもので、持っていない人というのはいません。いわば、全員が当事者です。でも、これまでセクシュアリティについて語られることが少なかった歴史を考えると、今は「当事者」として語ることを止めてはいけないと思います。最終的には、「ふ〜ん」ぐらいで受け止めてほしいなと個人的には思いますね。

—佐藤さんは、ご自身を「パンセクシュアル」(=全性愛者)と称されましたが、市内の中学校で先生方の研修でお話されたそうですね。

教育についてはどんなふうにお考えですか?

**佐藤:** 10月に社会科の公民分野で中学3年生がLGBTを学ぶことになっていて、7月26日に先生方に

「当事者」としてお話しました。現在は、他者に対する想像力が欠けています。「多様性」といいつつ、違いを探して分断されています。世代のギャップもありますし、相模原に根付いている伝統というものがあるかもしれません。私も、母親は理解してくれていますが、父親にはカミングアウトしていません。しかし、「多様」であるから面白いし、自分たちを肯定し、前向きになりたい。学校でもどこでも、こどもたちにも伝えていきたいと思っています。

〈からふるテラス〉のメンバーのみなさん 佐藤さん、渡辺さん、流さん



### からふるテラスこれからの活動予定

- 9月29日 会場：ソレイユさがみ ※上映と交流会 下に詳細
- 10月 会場：ソレイユさがみ 連続講座を
- 11月 会場：ユニコムプラザ 開催します。

### ありのままの自分で生きる ~LGBTsを知るう~ VOL.3

参加無料!

第1回 9月29日(日) 10:00 ~ 12:00  
上映と交流会

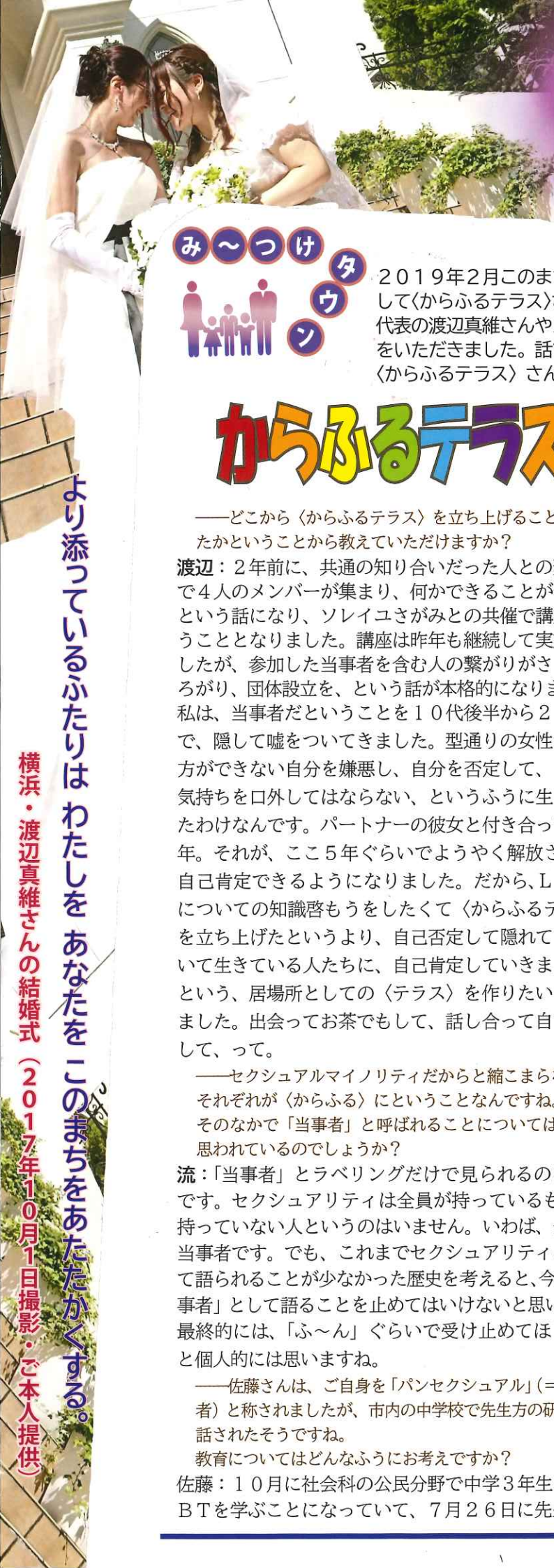
会場：ソレイユさがみ  
セミナールーム5 (定員40名)

『カラコエの花』  
(2016年/日本/39分)

LGBTをテーマに国内の映画祭で受賞多数の話題作。「最もピュアな感情を思い出させてくれる映画」西原さつき(タレント・女優)



横浜・渡辺真維さんの結婚式(2017年10月1日撮影・ご本人提供)





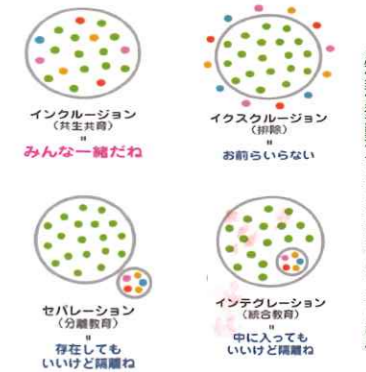
# ダイバーシティという言葉を知っていますか？ 直訳すれば多様性のことです。

2019年7月12日、桜美林大学で開催された講演会に参加してまいりました。講演会は、ソレイユさがみと桜美林大学サービスラーニングセンターとの共催。1面でご紹介した(からふるテラス)さんが協力。実施団体は、桜美林大学ジェンダー研究会「I am」。特別に講演会の始まる前に控室でご挨拶させていただきました。会場となった桜美林大学の明々館には、大きく講演会の垂れ幕が下がっていました。講演者は性同一性障がい当事者である勝又栄政(かつまた・てるまさ)さん。会場は満席でした。今号では、紙上講演会として、勝又さんから教えていただいたことをまとめ、このまちのみなさんと共有して、もっと「あなた」らしく、「わたし」らしく暮していけるヒントとしたいと思います。

こちらが講演会のなまえ。見出しに引用させていただきました！

memo 7 この機会に覚えておきたい

## ダイバーシティとインクルージョン



多様性を考えるモデル図です。私たちは、どのような多様性の存在モデルを描けるでしょうか。

# 「あなた」と「わたし」性別という垣根を越えて 多様性のまちづくりへ

講演者 かつまた てるまさ 勝又 栄政 さん



この日、お話しくださった勝又さんは、性同一性障がい当事者(Female to Male)。乳腺・乳房摘出して名前も変えていますが、適合施術は行っていないので戸籍上は女性。現在は、障がい者の就労移行支援を行うかたわら、教育大学の非常勤講師としてジェンダー講義を担当。また、特定非営利活動法人東京レインボープライドの運営にも携わって啓もう活動を行っています。

セクシュアリティは趣味ではない 「わたし」らしさ 「あなた」らしさ

- memo 2 **Lesbian** レズビアン、女性同性愛者
- Gay** ゲイ、男性同性愛者
- Bisexual** バイセクシュアル、両性愛者

**Transgender** トランスジェンダー、性別越境者

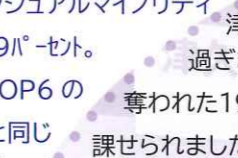
LGBTは、この頭文字をとった単語でセクシュアルマイノリティ=性的少数者の総称のひとつです。

もちろん、セクシュアリティがこの4つに全て集約されるということはありません。区分は、グラデーションをもっていますし、さらに分化していくでしょう。分類が大切なのではなく、ありのままの「あなた」であることが大事なのです。

必ず身近にいるのに会ったことがない？



memo 3 「あなたは、これまでの人生で佐藤さんという名前の方に会ったことがありますか？」と、講演はこんな問いかけから始まりました。「では、鈴木さんは？ 高橋さんは？ 田中さんは？ 伊藤さんは？ 渡辺さんは？」もちろん、ほとんどの方がこの名前を持つ人を知っていることでしょう。これは、日本で多い名字TOP6 でおおよそ 860 万人います。電通ダイバーシティラボが 2018 年に行ったアンケート調査によればLGBTなどのセクシュアルマイノリティに該当する人は 8.9パーセント。つまり、ひとりがTOP6 の名字の人と出会うと同じぐらいの確率で LGBT の方に出会うはずなのです。ところが、みなさんは身近に会ったことがないと言われる。なぜでしょう。それは LGBT の人が簡単に名乗れないからなのです。なぜ、名乗ることができないか。そのこと自体が社会のあり方を問うているのです。そして、私たちがどのような社会に生きたいか、どのような社会をつくりたいかという問いとひとつになっています。



## 映画に目撃する 多様性のある暮らしの豊かさ

てんかんと知的ハンディをもつ姪『奈緒ちゃん』以来、近作の『やさしくなみに』まで35年間寄り添って撮影を続ける伊勢真一監督。重度知的障がいの青年のシェアハウスでの自立を追った『げんちゃんの記録』の大河原明子監督のおふたりのまなざしを映画の一部を紹介してもらって、共有することから集いは始まりました。

伊勢監督は『えんとこ』という寝たきり歌人・遠藤滋さんの歌を紹介して、トットと彼らのいる暮らしの豊かさを。大河原監督は居酒屋のシーンから、障がいという型にはめていないのがだれかという問いを投げてくれました。

## 母親たちが語る わが子・くらし・思い



集いの二部では、『奈緒ちゃん』のお母さん、『げんちゃん』のお母さん、事件のときにやまゆり園にいて、現在、グループホームにチャレンジ中の和己さんのお母さんの3人が、わが子とのくらしのこれまでとこれからを語ってくれました。率直な気持ちの語り、これまで男たちの多かった対話のなかでひととき新鮮で、ずっと心に落ちるような感じました。どのお母さんも、わが子は誇りと語り、コーディネーターの浅野史郎さんは「闘っているお母さん」とたたえました。そして、「どんだん誇りあるわが子を社会に出してください」と励まし、「そのことで社会はもっと豊かに幸せになる」と締めくくられました。知らないから尻込みする。知れば、知った分だけ豊かになる。私たちが豊かで幸せになるための「闘い」を、お母さんたちだけに肩代わりさせるのは、もう区切りしなければ。「考え続ける会」は毎月話し合いをつづけられています。



このまちだからこそ忘れてはならない もうひとつのダイバーシティ

勝又さんは、1991 年生まれ。4 人兄弟の 3 番目。家族にとっては、男ばかりのなかで生まれた待望の女の子でした。愛くるしい七五三の写真(左上は、スライドでご自身を紹介するところ)を見ると、目の前の勝又さんのこども時代と紹介されても驚くばかりです。

しかし、ご本人はこの写真を撮っているときも嫌で嫌でならなかったとそう。家族が喜ばばなおさら。さらに思春期になると胸が大きくなることに嫌悪感のはつるばかりだったと聞けば、家族に打ち明けたときの家族の驚きもさることながら、それでもなお、自分のありのままを打ち明けずにはいられなかった苦しみの深さを垣間見る思いがします。セクシュアリティは、趣味のように取捨選択できるものでなく、理由なく当たり前であり、それを抑圧することは、生きることを奪うことになってしまうのです。

## memo 4 LGBT 理解は人権教育

当事者の方はトイレに行くにも悩みます。そのために水分を控えてトイレに行かなくてすむようにします。病院で名前を呼ばれるのも嫌で、診療さえためらうことがあるとか。その障壁は、社会が作り出しています。守られなければならない人権についてさらに深い教育が必要です。



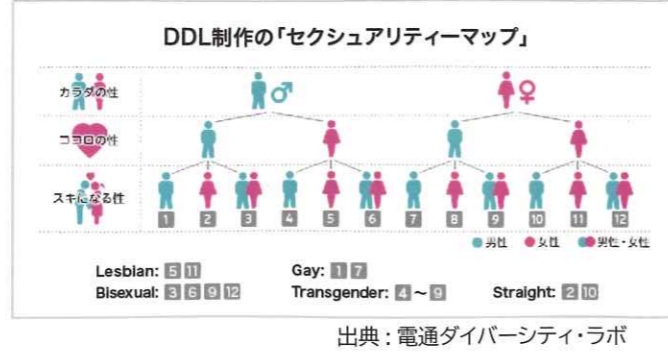
memo 6 だれかを傷つけないですむ言葉づかいの例 マナーとして覚えておきましょう！

- 彼氏・彼女 → パートナー・恋人
- 普通の人 → ヘテロセクシュアル、マジョリティ
- レズ → ビアン
- ホモ → ゲイ、ビアン、ホモセクシュアル
- 君・さん → 基本は、～さん 確認してから ~君・～さんと分ける

あっちの人、オカマのポーズはタブー レインボー(6色)は、セクシュアルマイノリティの象徴

## memo 5 Facebook アメリカ版のジェンダーは 58種類

何が好きで、何が嫌いな？ …はれものに触れるようにはなく、思ったことを伝え合える関係性をつくりましょう。差別に当事者が敏感なのは当然です。せめて、その苦しみを敏感に理解し、「あなた」と「わたし」の関係をどこまで大事にできるか、ひとりの人間として出会いを求めていこうと思います。そして、「知らなくてごめん」「つらかったね」と言えるようになりたいです。



津久井やまゆり園事件を考え続ける会 連絡先●sugi808@infoseek.jp

# こぞと

## ニューカレドニアで出会って 家族になって このまちに暮らす ナランさんにきく



※ニューカレドニア旅行の体験を描いた絵本『誰がために憲法はある』制作運動体

モーリシャスで6人兄弟の5番目として生まれたロンさんと日本で生まれた直子さんが出会ったのは、ニューカレドニア。「モーリシャス？」と、アフリカ東海岸インド洋に浮かぶマダガスカルよりさらに東にある小さな島国とその場で地図を確認するところから、お話を伺いました。仏語と英語で話すロンさんの通訳は直子さんをお願いしました。

### 天国にいちばん近い島での出会い

世界中に展開するホテル会社に就職して、同じホテルで働くことになったのがニューカレドニア。直子さんは保育士でロンさんは現在のお仕事と同じ調理師。直子さんを見て、家族になるのならこの人だと思ったと、ロンさん。「家族になる」をロンさんは“Make a Family”という言葉で表して、モーリシャスでは、30代の男ともなれば“Make a Family”するのが当然ですから、と。

ロンさんが積極的で、直子さんはほとんど駆け落ちのようにモーリシャスで暮らす

Ronald Narain さんとナラン直子さん  
Ronaldさんは“ロンさん”と呼んでください、と。



2019.7.22 撮影

ことに。お嬢さんが生まれるとたちまち両親ともモーリシャスに会いに来てくれたそうです。こどもの力ってすごいと笑います。

### これから変わっていく日本文化

現在、直子さんのご両親といっしょに東林間で暮らすおふたりに、まず、「日本の暮らしってどうですか？」と投げかけると、ひとこと「差別を感じる人が多い」。

電車に乗っても、自分が座ると隣にだれも座ってくれない、とロンさん。批判として言ってるのではなく、それが日本の文化だと思う、と。

職場で有給休暇を自分はいっぱい取るが、日本人同僚は相手にどう思われるかを気にして休もうとしない。また、日本では親が子どもに求めるものが多すぎるように思う。“Make a Family”のためにもっとコミュニケーションが大事だと思う。ロンさんが言う“Make”は、日本の決まり事の多い家族像から、コミュニケーションで支える家族への志向があると感じられました。

直子さんも子育ての経験を交えて日本の

「生きづらさ」に触れてくれました。日本人は外国人への経験が少なく、まだまだこれから。ロンさんがお嬢さんを小学校に迎えに行ったときの騒ぎなど、先生を含めて教育の場でも、面倒くさがらずに小さな取り組みを重ねていくしかない、そのためには、自分からも発信しなくては、と直子さん。

### ナランさん、出会いをありがとう!

ナランさんたちも日本に暮らして10年。受け入れてくれる人もいっぱい、友人もできました。直子さんの妹さんもオーストラリア人と結婚。お父さんは、白人系のお孫さんと黒人系のお孫さんを連れて歩くことになり、二度見されたりするとか。

直子さんが日本人だったから結婚したわけではない、とロンさん。ロンさんと直子さんのおしゃべりから、人と出会うとき、ひとりひとりがもっと自由にもっと豊かな気持ちになることができるなら、出会いはもっともっと広がっていくと実感するひとときとなりました。(ii)

## Information

★★ここdeシネマ第14回★★ 今年度開催事業はさがみほろ市民協働ファンド・ゆめへの助成をうけています。

次回は **2019年11月22日(金)**  
PM2:30上映開始予定  
会場:相模女子大学グリーンホール・多目的ホール



©「誰がために憲法はある」製作運動体



この作品は、バリアフリーになっていません。そして、聴覚障がい者のための字幕を私たちがつくります。現在、採録ナリオもありません。本編の音や会話を拾うところから始めます。いっしょに字幕をつくらせてみませんか？ 関心のある方、ご連絡をお待ちします。

『誰がために憲法はある』 音声ガイドに代えて——  
ドキュメンタリー映画  
2019年 日本 69分  
出演: 渡辺美佐子ほか  
監督: 井上淳一  
「憲法くん」作 松元ヒロ

無声映画における活動弁士を想像ください。いつもFM電波で音声ガイドをお届けしていますが、大輔さんがその場で音声ガイドを弁じます。視力障がいのあるなし関係なく、会場全体で活弁つき鑑賞を体験しましょう♥

●半券キャンペーン参加事業者募集中です。  
●<ここdeシネマ>開催ボランティアも募集中です。

いま、深く共感しながら見たい映画だからライブ活弁で!

『フリー情報紙 こそずたうん』 No.18

【発行日】2019年8月  
【発行所】NPO法人こそずと  
〒252-0303 相模大野9-6-18  
こそずたうん編集室

ご意見、投稿、記者志望者は  
こそずたうん編集室へ

【TEL】042-745-0676 【FAX】042-742-0447  
【E-mail】info@cocozutto.jp



## クリップ・ボード



第14回 **8月6日(火) 販売開始**

# 大野南クラシックコンサート

ピアノ 大原 亜子  
「肖邦のワルツ」  
「ブラード第4番」他

ピアノ 矢澤 一彦  
「エリーゼのために」  
「ベートーヴェン」  
「ワルトシュタイン・ソナタ」他

2019.9.15(日) 開場 午後1時00分  
開演 午後1時30分

相模原南市民ホール 全席自由 500円

金管三重奏

トランペット 吉川 慎一  
ホルン 木原 英土  
トロンボーン 轟木 敬

チケットは、大野南市民館窓口で販売します。  
販売時間: 9:00~12:00 / 13:00~17:00  
(月曜日は9月15日(日)を除く)

\*お車でのご来場はご遠慮ください  
\*3歳以下のご入場はご遠慮ください

主催: 大野南クラシックコンサート実行委員会 共催: 相模原市立大野南公民館  
協賛: ART Hair Salon、株式会社ラ・サーヤ、すし魚家 かつまさ 相模大野店、中国料理 昌龍飯店、  
イタリア食家 Fagotto、鶴見園芸、菅原治療院 問合せ: 電話 042-749-2121 (大野南公民館)

■今号は、見出しをのぞく多くにUDフォントを使用してみました。より読みやすくなったでしょうか? ユニバーサル・デザインを意識することで、見えてくるものもありそうです。ご感想をお寄せください。

NPO法人こそずとは  
市民相談窓口を開いています。相談は☎042-745-0676へ。